札幌会場

# IR（統合型リゾート）に関する地域説明会（札幌会場） 質問・意見等

日時：平成 31 年 1 月 23 日（水） 14:30～16:30

会場：TKP 札幌ビジネスセンター赤れんが前　会議室「はまなす」

■ 男性Ａ

なぜ今日地域説明会を開催したのか。また、苫小牧がこのＩＲの候補地として絞られているが、なぜ苫小牧が札幌より説明会が後なのか。７月２０日に参議院の本会議でＩＲ整備法が強行採決されたが、その前の内閣委員会を試聴されているのか。

■ 道（観光局誘客担当局長）

説明会の周知については、年末に開催日、開催場所を含めて、プレスリリースを行い、道のホームページにも掲載。また、各振興局にもチラシを設置。１２月の時点で新聞各社からも報道。

札幌と苫小牧について、順番に他意はないことについて、御理解をいただきたい。

国会審議の状況は、札幌で平日勤務をしており、国会そのものを傍聴することは難しい。新聞、テレビ等の報道や議事録を確認している。

■ 男性Ｂ

賭博は法律で禁止されている。また負けた人の不幸の上に成り立って、不幸な人を作るものであり道庁が一生懸命やるべきものなのか。道内には既にパチンコ依存症の人がたくさんいる。こういう依存症を解消してからカジノを検討すべきではないか。

■ 道（観光局誘客担当局長）

ＩＲを設置することによって不幸な人が増えるという状況を作っていくつもりはない。国もギャンブル全般を対象とした基本法ができ、その基本計画のもとで来年度以降体系的な対策を進めることとしており、北海道も合わせて地域計画を検討し、ギャンブル依存全体の対策をこれまで以上に進めていきたい。

ＩＲについてもカジノを設置して、そのリスクは最小限にしていくということ、それに付け加えて全体の依存症のリスクを今よりも下げていくということを、対策の基本的な方向性として位置付けている。

■ 男性Ｂ

北海道はパチンコの依存症に苦しんでいる人の解消に現在取り組んでいるのかどうか。

■ 道（観光局誘客担当局長）

現在道内にも相談支援機関、対応できる医療機関があり、しっかりとした対応をしている。ただもっと体系的な対応は今後必要との認識であり、更に対応を強めていく。

■ 男性Ｃ

ＩＲの推進は非常に大賛成で、本道経済の活性化につながる未来指向型の政策と認識している。その上で電力需給の問題、上下水道の問題、ゴミ処理の問題など処理施設に関わる問題や、全般的な環境アセスメントに対する北海道としての考え方はどのようなものか。

■ 道（観光局誘客担当局長）

ＩＲを起爆剤として北海道の抱える様々な問題にも解決すべきと、そういった総論的な話と受け止め。ＩＲ導入による交流人口の拡大や、二次交通の問題、インフラの問題があり、こうした社会的な課題にもＩＲの収益によって対応できると可能性はある。北海道の発展について、ＩＲがどれくらい貢献するかということは、更に検討していく必要がある。

■ 男性Ｄ

誘致については反対の立場で意見を述べる。カジノというのは刑法で禁じられている賭博。それを何故わざわざ解禁しなければいけないのか。日本には公営ギャンブルやパチンコがあるが、それは抜け道を作って成立しており法に触れないとなっている。カジノ解禁を推進しているのは、ゲーム機業界やパチンコ業界であり、パチンコ業界はカジノ賭博が解禁になると三店方式を廃止して、店で直接換金できる方向に持って行けるという思惑がある。国内からだけでなくアジアの富裕層を呼び込むといっているが、既にマカオやシンガポールにもカジノはあるので、本当に人が来るかどうか疑問。仮にいくつかの施設を作っても、閑古鳥が鳴く事態になるのではないか。かつてのリゾート開発と同じく、箱物だけが残って、長期に渡って地方の負担になる可能性が非常に高い。カジノ解禁は経済対策としても邪道。北海道は大自然を活かした振興策を考えるべき。北海道政として汗を流して地域振興に努力している地域にこそ支援の手を差し伸べるべき。カジノ、ＩＲについては、ぜひ諦めていただきたい。

■ 男性Ｅ

ＩＲ誘致が決定した際の予算措置は、検討しているか。

■ 道（観光局誘客担当局長）

予算措置について、区域認定計画を作る際に事業者と行政、地元の自治体、北海道も含

めた中で必要に応じて公的な負担をする場合もあるので、今後とも情報公開をしっかりとしながら道民の皆様の合意をいただきながら、進めていく考えである。

**■　男性Ｆ**

世間一般の方に知ってもらえるよう問題提起をして欲しい。

また、議論の内容がカジノを認めるかどうか、つまりギャンブルを追加するどうかというだけの議論に終始してしまっている。全体的な話の中でのカジノの厳格な管理をするとか、依存症対策については段階的にきちんとやるなど、全体的な話が理解されるように工夫いただきければ、ギャンブルだけをＹＥＳかＮＯかという話ではなくなると思う。

**■　道（観光局誘客担当局長）**

有識者会議でも同様の御指摘があり、理解をしっかり深めていくためには、こういった機会で道民の皆様との対話を進め、道の考え方を説明していく必要がある。ホームページでも意見を募集している。こうした機会も増やしていきたい。

**■　男性Ｇ**

シンガポールは人口や地域的な規模で違いがあり、比較をすることはできないのではないか。国際会議場に力を入れていきたいとのことだが、シンガポールでさえ１．２倍程度である。道では国際会議の開催はどれくらい見込んでいるのか。

**■　道（観光局誘客担当局長）**

具体的な件数等については、まだ議論を進めていない状況だが国際会議等を“てこ”に民間の会議等を呼ぶことも可能になるのではないかと考えている。

**■　男性Ｈ**

入場料は道に入って苫小牧には入らないということでよいか。（カジノ収益の）粗収益による北海道への納付金が入ってくるが、どういった方向に使う考えか。

二次交通システムの整備にＪＲは含まれるのか。もし含まれるならＪＲに対してどういう考えがあるのか。

生体認証による厳格な入場管理とか利用者の行動履歴の把握とあるが、個人情報の管理をどのようにしていくのか。

**■　道（観光局誘客担当局長）**

道は入場料、納付金の配分を決められるということになっており、地元自治体と配分について検討していく。地元市だけではなく、周辺の都市も影響があれば都道府県が配分をすることができるとなっており、誘致をする場合には、納付金の配分等に検討していく必

要がある。

使途についてもＩＲ設置に必要なインフラや二次交通の整備など広く使えるような形で法律には規定されているので、北海道の課題を広範な形で議論をしていく必要がある。

ＪＲは北海道の基幹となる二次交通との認識であり、ＩＲから送客を道内に進めていく上で、ＪＲという基盤は非常に大事であり、そういった面からも納付金等の使途について検討していく必要がある。

生体認証等に伴う個人情報の管理は、もちろん厳格にしなければならない。個人情報保護法や道の個人情報保護条例に基づき、しっかりと道と事業者で個人情報保護に取り組んでいく。そのための具体的方策はこれからの課題である。

**■　男性Ｉ**

カジノに関する厳格な入場規制を実際に行えば、ギャンブル依存症で悲惨な状況に追い込まれる人はある程度防げるのではないか。これだけ十分な規制の上でカジノをやるのであれば、カジノの解禁もよいと思っている。しかし、今パチンコではそこまでの規制をしていない。政府はパチンコに対してまともな規制をしていないというのが現状だと思っている。厳しいカジノ規制であっても、業界に気を遣っていくうちにどんどん甘くなっているのではないか、住民の命や健康よりも業者の利益を追求するのではないか、と危惧している。

**■　男性Ｊ**

北海道ＩＲの整備で、北海道観光の更なるレベルアップ、観光先進国の実現という目標を掲げているが、北海道観光の課題あるいはこれからの方向性とＩＲの関連、あるいは具体的な課題に対してＩＲをやることでどういう観光先進地に向かっていけるのか。

**■　道（観光局誘客担当局長）**

２０２０年までの目標で外国人観光客を５００万人にするということ、また観光消費額も２兆円を上回る数字という高いハードルである。飛躍的に上げるということになると、新たな観光のコンテンツや仕組みが必要になるのではないか。北海道には他地域にはない潜在力、コンテンツがあると認識をしており、それらを具現化する一つのツール、起爆剤となるものに、ＩＲを位置付けられるのではないかと考えている。効果が最大化されるようＩＲのコンセプトをもっと詳細に形作っていくことが今後必要である。今後更に北海道の優位性を示せるような構想を作っていく必要がある。

**■　男性Ａ**

昨年の７月２０日、参議院の本会議、白眞勲議員の反対討論に聞きたいことが含まれている。次回２８日の苫小牧会場で質問する。

**■　男性Ｋ**

シンガポールのＩＲがかなり儲かっているという事例が紹介されたが、隣国の韓国にも１６か１７か所くらいのカジノがある。それの現状などは勉強されているのか。国民に入場許可している江原だけが儲かっており、あとほとんど儲かってない。

**■　道（観光局誘客担当局長）**

韓国についてはＩＲを設置した結果としての課題については、承知しているし、北海道にＩＲを誘致する場合には、そういった先行事例の課題も考慮しながら検討を進めていく必要がある。負の部分がこの韓国のＩＲでどうなっているか、更に調べて参る。